

2020年9月11日

学生の皆さんへ

京都文教大学
京都文教短期大学
学長 平岡 聡

学長からのメッセージ（秋学期／後期授業開始にあたって）

昨年末に始まった新型コロナウイルスは瞬く間に全世界に拡がり、日本でも緊急事態宣言が出されるまでになりました。そのような状況下で、本学でも、学生の皆さんに、これまでに経験のしたことのないオンライン形式での授業を受けて頂くことになりました。初めてのことで、戸惑われ、困られた方も多かったのではないかと思います。教職員にとっても初めての経験でしたので、きっと不十分な点もあったのではないかと思います。その点についてはこの場を借りてお詫びすると共に、今後の改善に向けた努力をつづけていくことをお約束します。

その改善のための基礎資料とするべく、半年間の取り組みについて春学期（前期）末に皆さんにアンケートに協力して頂きました。アンケートでは、オンライン授業の様々な課題や苦勞を指摘する声と共に、新たなスタイルの中で一生懸命学んだ皆さんの努力と前向きな意見も多くいただきました。また時間管理の難しさ、人に会えないことによる孤立感といった学生さんのつらい状況もお伝え頂きました。こういった不安には、学生相談のさらなる充実を進めていますので、遠慮せずゼミの担任教員、アドバイザー教員や学生課に相談してください。

[【2020年度春学期/前期振り返りアンケート集計結果（情報公開）】](#)

感染状況の推移を見極めつつ、秋学期（後期）の授業実施形態について学内で議論を重ねてきました。アンケート結果では、対面型授業再開に関して、不安をとくに感じないとした学生が3割ほどいる一方、通学に不安を感じる学生が約7割（そのうち「とても不安」と回答した学生は3割）いることがわかりました。大学、短期大学として皆さんに「質の高い教育を提供する」という責任と、有効な治療薬やワクチンが存在しない中で学生の皆さんやご家族の「命を守るための感染予防」の両立という難しい課題を抱え、ギリギリまで様々な可能性を検討してきました。

その結果、秋学期（後期）の開始を目前に控えた現段階で本学の危機管理レベルはレベル1に準じると判断し、授業実施には最大限の感染予防措置を講じた上で、①演習・実習科目は原則として対面で実施する、②講義は原則オンライン（主としてオンデマンド型）で実施することにしました。資格関連を中心とした学外実習も、厳格な感染予防行動指針に従って、関係先と協力しながら実施していく予定ですが、宿泊や飲食を伴う活動は三密を避けることが困難であり、当面休止の扱いとします。

大学、短期大学は学生数も多く、通学・行動範囲も広域にわたり活動内容もアルバイトなどを含み多岐にわたるため、小・中・高と同様の対応は困難です。また全ての授業でキャンパス内での移動が伴うため、キャンパス内の滞留人数や行動によって三密状況が発生する危険があります。食堂、図書館、スクールバスなどの教室以外の空間において、新たな設備なども導入し三密予防を徹底する措置をとりながらも、キャンパス内に滞在する人数を絞り込む必要があり、上記のような授業実施方針をやむを得ず決定した次第です。

アンケートでは、対面授業が少なく、キャンパスの施設を利用できないなら、学費などを減額してほしいという要望も頂きました。大学、短期大学の活動資金は、皆さんの納める学納金によって賄われているわけですが、平時から余剰を出すことなく、その全てを授業や授業外教育を通じて、あるいはそのための環境整備などを通して皆さんに還元しています。今回大学での対面授業が実施できないために光熱費などが減少しているのだから授業料を返還すべきだという報道などもありますが、本学ではオンライン授業の安定的実施のためにICT環境のバージョンアップやサポートスタッフの増員、感染予防措置に関する備品購入などに相当額の支出が生じています。今後予算執行状況の精査を含め、授業や授業外教育充実への支出を最優先させていくことをお約束いたしますが、現時点での運営状況では、授業料を一律に減免することは学校運営上困難です。教職員が力を合わせて、学生の皆さんの意見を聞きながら授業や学生支援の質向上を重ねていくつもりです。

さらに、激変する社会状況のなかで、就職活動に関しても、オンライン説明会やオンライン面接などが実施されています。また従来であれば実施される予定であったインターンシッププログラムなども休止されるなど、学生の皆さんの進路に対する不安が募っていることと思います。本学では就職進路課とゼミの担任教員、アドバイザー教員が連携しながら、皆さんの進路支援をサポートできるように、早期のオンライン面談の導入、大学独自のオンライン説明会の開催など、可能なところから就職支援を進めています。

今回のコロナ禍により、世界は再び以前の生活に戻ることはないでしょう。アフターコロナという新たな時代をどう生きるか。今、世界は新たな価値観（new normal）を模索している最中です。大学、短期大学の学びの特徴は、「正解のない問い」を自ら立て、その問いの「最善解（最適解）」を導くことにありますが、これを機に学生の皆さんもわれわれ教職員も一丸となって、ともに教育の新たな価値観を求め、最善解を見いだしていきたいと思えます。

大学の建学の理念は「ともいき（共生）」です。また、短期大学の建学の精神は「三宝帰依（「謙虚にして真理探究」「誠実にして精進努力」「親切にして相互協同）」です。この「ともいき」の理念と「三宝帰依」の精神に立脚し、授業運営のみならず、キャンパスライフや学生生活、そして就職支援のあり方についても、真摯に学生の皆さんの声に耳を傾け、改善を図っていきますので、皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

以 上